

第 69 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：樹林環境（雑木林）の順応的管理—

今月の研修会は、皆伐予定地の雑木林の調査実習を行いました。



厳しい冷え込みとなった今回の研修会。池の水は乗っても大丈夫なほどに厚く凍っていました。
でも、梅の花は今にも咲き始めそうに膨らんで、少しだけ春を感じさせてくれています。



作業場所の雑木林に移動して作業の説明と解説を行います。
今回の作業は先月に続き、伐採する樹木の位置を記録するための
測量と樹冠投影図の作成です。



基準点・樹木間の長さを測ります。これを三角測量の要領で図面に落としていきます。
完璧なものではありませんが、簡易で、特別な機器が必要ない方法ですので
覚えておくと役に立つと思います。



同時に太さ(幹周)、樹種も記録。昼食をはさんで午後は別の作業に移ります。



昼食後は、恒例の「環境に関する気になったニュース」の発表をしました。
それぞれが違った視点でニュースを選んでいるので、
普段気にしていないことにも気付かされます。



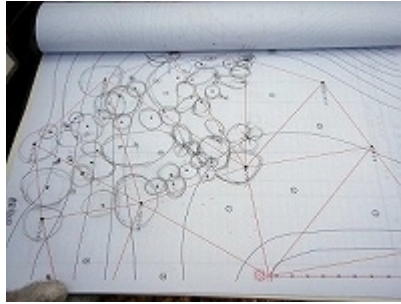
午後の研修は、昨年おこなったホトケドジョウの水路の視察からスタートです。
流れがしっかりと残っています。
水量や周辺の湿地の状況を見ながら春以降の作業方針を検討しました。



さて、雑木林に戻り樹冠投影図の作成です。記録方法をしっかり説明して作業に入ります。



各自担当のエリアに移動して記録していきます。
この作業は「葉張り(樹冠の広がり)」を記録する
もので、伐採前の樹木の勢い(樹勢)を記録する
意味合いがあります。



だいぶ記録できてきましたね。

これらの作業は、皆伐する前の雑木林の状態を記録するのはもちろん、記録したデータが皆伐後の萌芽率を調べたり、樹齢や樹勢による萌芽率の違いなどを調査する上で必要なデータとなります。



調査の合間に、落ち葉溜めのカブトムシ幼虫を掘り起こしました。

皆伐作業で影響の出ることが予想されるため、安全な場所へ移動するためです。



1つの落ち葉溜めからこんなに大きくなった幼虫が20匹ほど確認できました。

これらは新しい寝床に移動してもらいました。

来月の研修会で残りの落ち葉溜めも見ようと思います。

これで今月の現場研修会は終了です。2月は皆伐作業を行っている可能性があり、作業を間近に見ることができるかもしれません。これまで作業に関わったことのある方はもちろん、まだ参加したことのない方もぜひご参加ください。